

2022年度 事業計画書

2022年4月1日～2023年3月31日

特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー振興会議

2022年度事業計画書(案)

基本方針

- ・ 特定非営利活動法人として、特定非営利活動法第2条、別表第1号(保健医療又は福祉の増進を図る活動)及び第7号(環境の保全を図る活動)に規定する各種事業を推進する。
- ・ 大学、国公立試験研究機関などのバイオ技術シーズや産業界のニーズを積極的に結び付け、産学官連携事業を推進するとともに、ベンチャー企業の創生と育成に向けた支援事業に取り組む。
- ・ 産学官の有機的な連携を図りつつ、研究開発の推進、人材の育成、研究会・シンポジウムによる普及啓発活動を通じて、バイオインダストリーの振興に寄与する。
- ・ 近畿地域のみならず全国のバイオ関連団体との連携を密にし、相互間の協力体制の強化を図る。
- ・ 国のバイオ関連施策はもとより、地域の取り組みや施策等についても積極的に取り上げ、その普及を図る。
- ・ エネルギー・地球環境・健康などバイオテクノロジーがキーとなる課題に積極的に取り組む。
- ・ 会員にとって真に魅力的で有益な情報を幅広く提供していくとともに、特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー振興会議の活動を積極的に対外に広報する。

これまでの活動の経緯と総括

特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー振興会議は、故・山村雄一大阪大学総長らが発起人として1985年に設立された任意団体近畿バイオインダストリー振興会議を前身とする団体で、その目的は、近畿地域に集積するバイオ分野の技術シーズを産学官の密接な連携のもとに事業化させ、産業発展に寄与するということであった。

2003年に特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー振興会議(以下:近畿バイオ)と組織変更し、経済産業省の産業クラスター計画「関西バイオクラスタープロジェクト」の推進機関として、近畿地域に集積するバイオ研究者及びバイオ関連企業とのネットワークを形成、拡大しつつ、その産学官のポテンシャルを最大限に活用した事業構築を行い、関西発のオープンイノベーションを実現するための活動を行ってきた。

具体的には、大学・研究機関等の研究者が持つ優秀なバイオ技術シーズの発掘・収集、その事業化の可能性の評価、大手・中堅企業とのマッチングの場であるバイオ技術シーズ公開会及び関西バイオビジネスマッチングの開催、研究プロジェクトの創成、公的資金獲得支援など、事業化に向けた一貫した支援を実施してきた。結果、これらの活動により、100社あまりのバイオベンチャー企業が創生・育成され、また、中堅・中小企業からのバイオ分野への進出など関西のバイオ関連産業の基盤拡大がなされた。

このような状況において、国は、2030年に世界最先端のバイオエコノミー社会を実現するため、内閣府においてバイオ戦略を策定し、バイオ関連市場の拡大とバイオコミュニティの形成を行うこととした。これを受け、関西圏におけるグローバルバイオコミュニティの形成を目指して、2021年7月1日に「バイオコミュニティ関西(略称:BiocK)」を設立し、事務局を近畿バイオと公益財団法人都市活力研究所の共同で担当することとした。また、2022年4月には、グローバルバイオコミュニティとして内閣府の認定を受けた。今後は、近畿バイオの活動に加え、BiocKが魅力的なグローバルバイオコミュニティとして世界に認知されるよう活動を実施する。

事業内容

I. 会務関連

1. 会員総会・理事会 2022年 6月16日(木)

2021年度事業報告・2021年度活動計算書
2022年度事業計画・2022年度活動予算書
役員選任

2. 記念講演会 2022年 6月16日(木)

「CEOとしての意思決定」

第一三共株式会社 常勤顧問 中山 讓治

3. 新規会員勧誘活動

バイオ産業の振興を促進し、バイオによる社会課題解決に貢献するため、また、その活動を支える財政基盤を強化するため、新規会員の勧誘活動を継続的に実施する。

4. 活動報告会

新規に入会した会員の紹介や、会員への説明が必要な情報の伝達などを活動報告会として実施する。実施時期は固定せず、新規会員が数社集まった段階、説明会が必要となった段階で開催する。参加者の利便性を考慮し、オンラインでの開催とする。

II. 業務関連

1. バイオ関連技術産業化支援事業

(1) バイオコミュニティ関西

2021年7月1日に設立した「バイオコミュニティ関西(略称:BiocK)」が、2022年4月に、内閣府のバイオ戦略に基づく関西圏のグローバルバイオコミュニティとして内閣府の認定を受けた。世界に認知されるグローバルバイオコミュニティの形成を目指し、今年度は、以下の活動を行う。

- ・ 委員会開催(7月、2月)
- ・ 分科会合同会議を開催し、分科会間の連携調整を行う(7月)
- ・ 分科会の支援活動と、新たな分科会の設置に向けた調整活動を行う
- ・ 連携機関の登録を進める
- ・ セミナーを企画し実施する
- ・ BioJapan2022に出展もしくはセミナー参加する
- ・ 海外交流事業の企画検討を行う
- ・ 大阪・関西万博への参画方法を検討する
- ・ 英文ホームページを作成する
- ・ 2023年度活動計画を策定する

(2) 産学個別マッチング

大学の技術シーズと企業ニーズとのマッチングを目的として、近畿圏の大学の産学連携部門とのネットワークを活用し、技術シーズの発掘を行うとともに企業への紹介を行う。また、新しい技術を有する中小・ベンチャー企業を発掘し、ニーズを有する企業へのマッチングに繋げ、事業

化を支援する。

2. バイオベンチャー支援事業

(1) 関西バイオビジネスマッチング2021の開催

バイオ分野で事業展開している企業等を対象に、業務提携、販路開拓、アライアンス締結等の推進を目指して商談会を開催する。初めて本格的にオンラインで開催した昨年度の実績を踏まえ、今年度はさらに規模の拡大を図る。参加者増加に向けての対応や、共同開催機関の探索などを行う。10月募集開始、1月・2月に商談実施の予定。

(2) 2022年度 ライフサイエンス海外ビジネス展開等支援事業(大阪府からの受託事業)

2019年度から継続して本事業を大阪府から受託している。本事業は、有望な研究・技術シーズを有する府内ライフサイエンス関連産業中小・ベンチャー企業等のグローバルなビジネス展開を支援するため、海外企業等とのマッチング・アライアンスの促進を図ることを目的としており、2022年度も引き続き受託する。

具体的には、府が参加する海外のライフサイエンス関連展示会に同行して海外クラスターとの連携を強化するとともに、海外企業等とのマッチング・アライアンスを促進するため「日欧バイオテック&ファーマパートナーリングカンファレンス」を実施し、さらにその事前勉強会として産学官連携情報交流セミナーを2回以上実施する。パートナーリングカンファレンスは10月11日(火)に大阪市内でリアル開催を予定。新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、リアル開催が困難であると府が判断した場合は、オンライン開催に変更し、9月26日(月)～29日(木)に実施する。

(3) BioJapan2022出展支援

BioJapanはバイオビジネスにおけるアジア最大のパートナーリングイベントとして知られ、国内最大級の展示会である。近畿バイオは同展示会の主催団体のひとつとして、これまで毎年共同出展を実施してきた。共同出展は、通常の個別出展に比べ出展費用が安く、バイオベンチャー企業にとって、大手企業とのアライアンスを目指す良い機会となる。

本年度も昨年に引き続き、共同出展の参加企業を募集する。

◆出展料

128,000円(近畿バイオの正会員(準会員を含まない))、180,000円(左記以外)

◆募集対象の設定

正会員(準会員を含む):条件なし

非会員:(1)バイオテクノロジー分野の研究開発もしくは研究支援を行っていること

(2)本社または事業所所在地が原則近畿圏内にあること

(4) 関西バイオベンチャー企業一覧

本サイトは、バイオベンチャーにアクセスするための有用ポータルとして活用されており、各ベンチャー企業とのネットワーク形成・維持にも役立っている。

昨年度、バイオインダストリー協会(JBA)との間で締結した契約に基づき、JBAが作成している「バイオベンチャーダイレクトリー」との統合を進め、さらに網羅性の高い、全国版データベースの構築を目指す。「関西バイオベンチャー企業一覧」に掲載している企業に連絡し、統合版への移管を進めるとともに、掲載企業を増やす活動を実施する。

3. 研究会

(1) 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会

機能性食品の開発・商品化を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、食産業の発展に寄与することを目的として2006年8月に設立した本研究会は、延べ66回の研究会を開催し、今年度で17年目を迎える。機能性食品が「予防医学・代替医療」として有効に活

かされていくよう、アカデミアにおける新しい知見を勉強する場として、また、科学的根拠に基づいた機能性、有効性および安全性を議論し、健康食品の信頼性を高める場として研究会を継続して開催する。

<開催予定>

参加者の利便性を考慮し、6月の総会以外はオンラインでの開催を継続する。
年4回開催(講師8名)予定。

◆2022年度 第1回 : 2022年 6月23日(木)

京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授 内藤 裕二

京都大学大学院 農学研究科 教授 小川 順

また、薬剤師や管理栄養士が機能性食品の知識・情報を取得し、企業の開発者と議論できる場として、昨年度から神戸薬科大学エクステンションセンターと共催で開催している「関西くすりと健康食品フォーラム」は、先方と協議して開催予定を決定する。近畿バイオは主に企業からの講師を推薦する。

(2) バイオの次世代を考える会

未来のバイオ領域を世界的にリードする可能性のあるバイオ若手人材を対象とした、交流・ネットワーキングの場となるように、新しい事業計画を立案する。関西の若手バイオ人材をコアメンバーとする運営体制の構築を行う。

(3) 毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム

毛細血管画像を健康指標として確立すること、およびその社会実装を行うことを目的として、2021年8月にコンソーシアムを設立し、今年度は2年目となる。毛細血管画像は、生活習慣病などの特定の疾患や、老化、疲労、ストレスなどの健康状態、さらには美容等と関連する指標として活用できる可能性がある。毛細血管画像と健康状態との関連を明らかにし、新しい健康指標として確立することができれば、健康寿命の延伸に貢献できる可能性があり、その意義は大きい。

今年度は以下の予定でセミナーおよび研究会を開催する。

◆2022年度第1回:総会、セミナー、研究会(7月、ハイブリッドで開催予定)

◆2022年度第2回:セミナー、研究会(8月末あるいは9月初、ハイブリッドで開催予定)

◆2022年度第3回:セミナー、研究会(11月、オンラインで開催予定)

◆2022年度第4回:セミナー、研究会(1月、オンラインで開催予定)

4. セミナー・講演会

(1) 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

ライフサイエンス分野で最先端の研究をリードしている関西の先生方にご講演いただくセミナーを公益財団法人都市活力研究所と共同で継続開催する。ハイブリッドで開催予定。

◆第32回 : 2022年 6月13日(月)

「工学的な臓器モデルの現状と課題、将来展望」

大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 教授 松崎 典弥

「生理活性合成化合物の新しい世界」

京都大学化学研究所教授・WPI-iCeMS副拠点長 上杉 志成

- ◆第33回 : 2022年 9月(予定)
- ◆第34回 : 2022年12月(予定)
- ◆第35回 : 2023年 3月(予定)

(2) 会場参加型トークセミナー

宮田 満氏のコーディネートによる会場参加型トークセミナーを開催する。本年度も企業のトップの方をお招きし、講演とトークセッションを行う。ハイブリッドで開催予定。

- ◆2022年 6月27日(月)

モデルナ・ジャパン株式会社 代表取締役社長 鈴木 蘭美

5. 海外交流

(1) 新春国際交流会

新春イベントとして、毎年、各国バイオ関連機関などのショートプレゼンテーションおよびパネル展示による交流・情報交換会と宮田満氏による講演を実施してきた。しかし、2020年度からは新型コロナウイルス感染拡大の影響により、交流会は中止とし、代わりに「新春バイオトークセミナー」と題して、宮田氏による講演およびフリートークをオンラインで開催してきた。

本年度は、リアル開催での実施を検討する。新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、オンライン開催、もしくはハイブリッド開催に切り替える。

- ◆2023年 1月20日(金)(予定)

6. その他

(1) 西宮市植物生産研究センター企画業務(西宮市より受託)

西宮市植物生産研究センターの企画業務を支援するとともに、同センターで開発された新しい植物の商標登録出願に伴う会計事務等を行う。

(2) メルマガ配信

他団体のバイオ関連の各種イベント情報を、関係各位にメールマガジンとして、定期配信(2回/月)する。必要に応じ、臨時配信も行う。